

## 日本のパパが育児に目覚める！？

日本のお父さんは、子育てをしない。いや、母親がするからしなくても済んでいた。しかし、イクメンという言葉が浸透し、育児に参加する父親の評価が高まっている今、その価値観は変わりつつあるかもしれない。

お父さんが息子を抱え、慣れない口調で絵本を読み聞かせる。そしてその様子をほかのお父さんと子どもたちが見守る。この日、「さいパパ」という団体が絵本の読み聞かせ会を開いていた。父親たちは本の読み聞かせを順番に披露していたのだ。

「さいパパ」は、お父さんのためのネットワークで、講座やイベントの開催を通してパパ同士の繋がり作りや新米パパへの指導を行っている。立ち上げたときの中心メンバーは、「さいたまパパ・スクール」という父親向けの育児講座を受講した卒業生たちだ。同講座は2010年夏、さいたま市の援助を受けてNPO法人ファザーリング・ジャパンがを開催した。

さいパパのメンバーで、2歳の娘を持つ市村典之さん(39)は子育てが楽しいという。

「週に一回ごはんを作って子どもに食べさせてます。その写真を Facebook にあげると、たくさん『いいね!』やコメントがもらえる。母親だったらやって当たり前のことなのに褒めてもらえるのは、パパだからこそです」

しかし、このように育児に参加する父親が特別扱いされる日本の状況は、育児が父親のあいだで浸透していないことの裏返しでもある。

「イメージとしてのイクメンは社会に定着してきた。だけど、実体としてのイクメンはまだ広がっていない」

そう指摘するのは、幼児向けテレビ番組「おとうさんといっしょ」のプロデューサーを務める、NHK エデュケーションルの奥富健善さん。NHK では50年以上も前から、子どもが家族と一緒に観て楽しめるように作られた「おかあさんといっしょ」を平日の朝に放送している。しかし、その名前が育児と母親を不用意に結びつけてしまうという指摘は多く寄せられていた。そうした背景もありNHKは今年4月、「おとうさんといっしょ」と銘打った新たな幼児向け番組を始めた。放送時間は毎週日曜日朝8時から30分間。番組は親と一緒に観ることを意識して作られ、一般のお父さんが子どもと遊びを楽しむ姿を紹介するコーナーもある。

「休日はボサボサ頭で寝転がっているようなリアルな父親の姿を映すことで、イクメンのキレイなイメージをあえて壊したいと思っています」

と奥富さんは話す。

「お父さんたちは、ほかの父親が子どもとどう接しているかを知る機会が無いと思うので、番組に出てくるパパさんたちを仮想のパパ友と思ってもらえたら嬉しいです」

及木駿